

---

# PIECE OF LOVE

波木蘭架

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

PIECE OF LOVE

### 【Nコード】

N8483A

### 【作者名】

波木蘭架

### 【あらすじ】

家に帰った冷菜は、ノートを切らしてるのに気づき、買い物に出かける。だが、帰って来る時に雪が降り、家に帰った途端に熱を出して倒れてしまう。

## 第二話 助けて

「ただいま・・・」

自分以外誰もいないのに、ただいまの言葉を言う冷菜。  
今日は紫希の事でかなり落ち込んでいた。

「はあ・・・紫希って本当に私のこと好きなのかな」  
紫希がいつもどこか冷たいというか、そっけない。  
抱きついたってすぐに仕事に戻ってしまう。

「もしかして紫希、迷惑に思ってるんじゃないか・・・」  
そう考えると、泣きたくなってくる。

「あ、そういえば数学のノート切らしてたんだ。買いに行かないと」  
冷菜は曇り空の中、2km先の文房具屋まで出かけていった。

その頃紫希は、ノートパソコンを開いて仕事中。

「五時・・・そろそろ帰りますか」

そういつて紫希は席を立つと、ノートパソコンをしまい、学校を出た。

外に出ると、雪が降っていた。

「いつの間に雪なんか・・・」

冷菜は、ノートを抱え、帰り足だった。

「ああ、雪降ってきたかった・・・早く帰ろ」

冷菜は走って家に向かったが、家に着いた頃にはもう体が冷え切っていた。

「寒い・・・」

（何かくらくらする・・・こんな時紫希が来てくれればな・・・）  
寒い中走ってきたせいか、冷菜は熱を出し倒れてしまった。

次の日の朝。紫希はいつもの時間に家を出たが、いつもついてくるはずの

冷菜がいない事に気づいた。

（寝坊したんでしょうか・・・？）

紫希は少し不安になったが、そのまま仕事に向かった。

続く

## 第二話 助けて（後書き）

第一話でシリアスかも、と書きましたけど  
そんなシリアスじゃなかったですね・・・。  
いつかはシリアスを！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8483a/>

---

PIECE OF LOVE

2011年1月6日14時39分発行